海外安全対策情報（２０２３年１月～３月）

１　社会・治安情勢

(1)　テロ等の傾向

ア　２０２２年中、パキスタンで２６２件のテロが発生した。パキスタンのテロ発生件数は、軍及び治安機関等によるテロリスト掃討作戦により、２００９年以降減少傾向にあったものの、２０２１年以降増加傾向にある。２０２１年に隣国アフガニスタンの首都カブールが陥落して以降、地域情勢は不安定化しパキスタンにも大きな影響が及んでいる。

イ　１月のテロ発生件数は２６件であった。テロにより、１２４名が死亡し２４７名が負傷した。テロで死亡した１２４名の内訳は治安機関員が１１６名、民間人が６名、武装勢力が２名であった。

２月のテロ発生件数は２９件であった。テロにより３５名が死亡し１１２名が負傷した。死亡者の内訳は治安機関員が１５名、民間人が１３名、武装勢力７名であった。

３月のテロ発生件数は２７件であった。テロにより３９名が死亡し、６０名が負傷した。死亡者の内訳は治安機関員２３名、民間人１１名、武装勢力が５名であった。

テロ発生件数は前の期（２０２２年１０月～１２月期）から３３件減少（１１５件→８２件）し、死者は４５名減少（２４３名→１９８名）、負傷者は１１０名増加（３０９名→４１９名）した。

ウ　今期においては、即製爆破装置（ＩＥＤ）攻撃や銃撃が主要なテロの手段であり、その標的の多くは軍・治安当局とその関連施設であるが、テロ組織の中には中国・パキスタン経済回廊（ＣＰＥＣ）や中国関連施設を標的と公言している勢力もある。

エ　都市部や地方の別に関わらず、治安当局によるテロリストの拘束及び武器・弾薬等の押収が多く確認された。治安当局による徹底した取締りが行われているが、依然としてイスラマバード首都圏を含めた都市部においてもテロの脅威は存在している。

(2)　各種デモ

当地では、主に金曜礼拝後、各種団体による様々なデモが行われる傾向にあり、デモ参加者の行動がエスカレートし一部が暴徒化することもある。

２　一般犯罪・凶悪犯罪の傾向

(1)　邦人被害事案

なし

(2)　銃器使用犯罪

本期間においても、前期と同様に銃器を使用した犯罪及び押収事案が相次ぎ、特に主要道路から離れた路地等人通りが少ない場所においては、その危険性が高い。主要都市部においても、銃器を使用した強盗事件（ガンポイント）や侵入強盗事件が頻発している。

治安当局は継続的な銃器の取締りに取り組んではいるものの、違法に所持し摘発されるケースが後を絶たず、違法銃器の蔓延が問題となっている。

(3)　招き入れ型侵入犯罪

イスラマバード首都圏は富裕層が多く居住しており、各家屋には警備員やドライバー等の使用人を雇っている家主が多いが、これら使用人が犯罪者側と共謀し家屋内に招き入れて犯罪に加担する事件が時折発生している。また、家主の不在間に家屋に侵入し、金品を窃取する事件が発生しているため、在宅の有無にかかわらず施錠を行うほか、使用人、警備員等への指導を徹底する必要がある。

(4)　名誉殺人

当国では地方を中心に、親が認めない相手との交際などで、家族の名誉を汚したとして女性又はその交際相手が殺害される、所謂名誉殺人が跡を絶たない。今なお保守的なパキスタン社会では、毎年多くのの女性が名誉殺人の犠牲になっており、凄惨な殺害事件も発生している。また、当地では親同士が本人の意思と関係なく決めた相手と結婚させるのが都市部でさえ一般的であり、それに起因するトラブルで結婚相手やその家族・親族等からのＤＶ被害も深刻な問題となっている。

(5)　性犯罪及び虐待

当地では、婦女暴行を含む性犯罪及び虐待事件が頻繁に報道され、その発生件数は非常に多く、性犯罪は増加傾向にあると報じられている。同種事件の被害者は、二次被害のおそれ等から警察に届け出ないことが多く、被害実態は正確に把握できない。被害者の年齢及び性別は多様で特に子どもをターゲットにした極めて悪質な犯行も多く発生しており、誰もが被害者になる可能性がある。また、最近の報道によると、イスラマバード市内居住の外国人駐在員女性が自宅の警備に従事している警備員に寝室に押し入られ、性的暴行を受けた事件が発生している。当地では、「自分の身は自分で守る」という意識を常に持ち、決して油断することなく、細心の注意を払うことが重要である。

(6)　サイバー犯罪

パキスタン連邦捜査局（ＦＩＡ）サイバー犯罪部門は、ＳＮＳを通じた詐欺投資話、違法な資金取引、児童ポルノのアップロード等、サイバー領域における監視を強化している。ＦＩＡでは、違法な手段で入手した資金がマフィアの活動資金となっているとして、摘発を強化している。

(7)　プロの物乞い

イスラマバード首都圏では、マフィアの支配下にある物乞いが問題となっており、イスラマバード警察では摘発に力を入れている。道路上での物乞いを装って、拳銃強盗を働くケースも報告されている。物乞いに窓を開けて対応する等、不注意な行動は犯罪者に隙を与えるため、慎む必要がある。

(8)　宗教上の禁忌に対する反応

２０２１年１２月３日、パンジャーブ州シアルコートの工場において、スリランカ人マネージャーをパキスタン人従業員が撲殺し、その遺体を路上で放火する事件が発生した。事件の発端は、宗教的禁忌（予言者ムハンマドに対する冒涜）に起因しており、激高した多くの従業員が暴徒化した。宗教上の禁忌に十分な注意を払い行動する必要がある。

(9)　その他

本期間においても連日、不法な銃器・爆発物・薬物・酒類の押収事案が報じられた。これらの事案は、厳重な警戒下にあるイスラマバード市内においても、テロ発生の可能性は依然として排除できないことを示している。

３　２０２２年４月から２０２３年３月までのテロ発生状況

２０２２年

４月	３０件、死者	５１名、負傷者	１２名
５月	１５件、死者	１９名、負傷者	３５名
６月	１５件、死者	１９名、負傷者	１５名
７月	２７件、死者	４２名、負傷者	５７名
８月	１７件、死者	２９名、負傷者	２２名
９月	２３件、死者	４０名、負傷者	１６名
１０月	４２件、死者	６７名、負傷者	１２１名
１１月	３５件、死者	８１名、負傷者	７９名
１２月	３８件、死者	９５名、負傷者	１０９名

２０２３年

１月	２６件、死者	１２４名、負傷者	２４７名

２月　　２９件、死者　　３５名、負傷者　　１１２名
３月　　２７件、死者　　３９名、負傷者　　６０名
（出典：パキスタン平和研究所「ＰＩＰＳ」）

４　安全を考える上で参考となる事件等（報道ベース）

１月分

○１日、ＫＰ州ラッキー・マルワット部族郡のシャバズケル（Shahbazkhel）にて、テロリストによる検問所襲撃により警察官１名が殉職した一方、テロリスト自身も死亡した。

○３日、パンジャーブ州カネーワル（Khanewal）にて、何者かが同州警察テロ対策局（ＣＴＤ）職員２名を銃殺した。エラーヒー同州首席大臣が亡くなったＣＴＤ職員に哀悼の意を表明した他、サナウッラー内相は当事件を非難すると発言した。

○４日、ムハンマド・ホラサーニＴＴＰ報道官は、「連立与党であるＰＭＬ－Ｎ及びＰＰＰが武装勢力に対する強硬な措置を支持し続けるのであれば、ＴＴＰは政党指導者を標的にするだろう」とソーシャルメディアにて声明を発表した。

○ＣＴＤは、国会議事堂の攻撃を目的としイスラマバードに入ったテロリスト２名を逮捕した。テロリストからは起爆装置4個、導爆線、爆発物500gが回収された。

○５日、治安部隊はＫＰ州南ワジリスタン部族郡ワナ（Wana）にて掃討作戦を実施し、ＴＴＰ戦闘員１１名を殺害したと発表した。殺害された１名はＴＴＰ司令官であり、同地域における警察署や治安部隊への攻撃に関与していた。

○５日、ＫＰ州バジョール（Bajaur）部族郡にて、数千人が武装勢力に対する抗議デモに参加した。地元長老や政治家等も参加し、テロ組織に対する厳格な対応を要請した。

○６日、ＫＰ州南ワジリスタン部族郡にて、数千人がテロ攻撃の増加に対抗する抗議デモに参加した。ＰＭＬ－Ｎ、ＰＰＰ、パシュトゥーン保護運動（ＰＴＭ）、アワミ国民党（ＡＮＰ）等の指導者等は、地域の安全と治安を確保する

のは政府の責任だと主張した。

○ＫＰ州ラッキー・マット部族郡にて、武装勢力による攻撃が立て続けに発生し、警官２名及び民間人１名が死亡した。殉職した警官１名は、ＴＴＰの関連組織から脅迫を受けていたことが明らかになった。

○７日、ＫＰ州バンヌー部族郡ドメルにて、武装勢力がパトロール隊を襲撃し、警官１名が殉職、別の１名が負傷した。

○７日、ペシャーワル郊外のサルバンド（Sarband）にて、ＣＴＤが掃討作戦を実施し、武装勢力４名を殺害した。他方、別の武装勢力４名は逃亡したため、引き続き捜索活動が行われている。

○１１日、ペシャーワルのアブシャー（Abshar）コロニーにて、警察署が手榴弾で攻撃されＣＴＤ隊員１名が負傷した。数時間後、ＣＴＤは同地区にてテロリスト４名を逮捕した。

○１４日、ペシャワール郊外のサルバンド（Serband）警察署にて、武装勢力の襲撃により警察副本部長（ＤＳＰ）１名と警官２名が殉職した。治安当局は、自動小銃や照準器等の高度な武器が使用されたと述べた。シャリフ首相は、当事件を強く非難すると述べた。ＴＴＰは当事件の犯行声明を発表した。事件の数時間後、ＣＴＤは同地区にて実行犯２名を殺害したが、他の３名は逃走に成功した。

○国連安保理は、パキスタンを拠点にするアブドゥル・ラフマーン・マッキ（Abdul Rehman Makki）ＬｅＴ副代表を、国際テロリストに指定した。同副代表は、資産凍結、渡航禁止等の対象となるＩＳＩＬ及びアル・カーイダ制裁委員会の制裁リストに追加された。

○１９日、ＫＰ州カイバル部族郡ジャムルードの検問所にて、テロ攻撃により警官２名及び民間人１名が死亡した。その後警察部隊は襲撃者を殺害し、周辺地域を封鎖した。ＴＴＰは当事件の犯行声明を発表した。

○２１日、バロチスタン州マストゥングにおいて、テロリストがチェックポイントを襲撃し銃撃戦となり、憲兵２名が殉職した。なお、他にも警察官１名が負傷し、テロリストは銃撃戦で殺害された。

○軍統合広報局（ＩＳＰＲ）によると、２２日、治安機関がＫＰ州北ワジリスタンにおいてＴＴＰ構成員１名を殺害し、自称自爆テロ犯含む６名を拘束した。

○ＣＴＤは、ペシャーワル近郊テーラ・バンド（Tela Band）において、ＴＴＰと繋がりがあるとされるアフガン人ミリタント１名を殺害、５名を逮捕した。

○ＩＳＰＲによると、２２日、治安機関がバロチスタン州ケッチュでミリタント８名を殺害した。

○２３日、バロチスタン州チャマンにおいて、ＦＣ隊員２名がバイクに乗った者から銃撃を受け殉職した。

○同日、警察によると、ＫＰ州ラッキー・マルワットにおいて、警察及びＣＴＤがインテリジェンス情報に基づく作戦（ＩＢＯ）を実施し、ミリタント６名を殺害した。同ミリタントらは、警察のチェックポストへの攻撃を計画していたとされる。

○２３日、ＫＰ州バンヌー部族郡ジャニケル地区にて、ＩＥＤの爆発により兵士１名が殉職した。

○２４日、ＫＰ州デラ・イスマイール・カーン地区のDarabanにて、警官１名が何者かに銃殺され殉職した。

○２７日、バロチスタン州ボーラーン部族群バラ・ナリ地区の検問所にて、武装集団の発砲により部族警察1名が殉職した。また同日、同州カラット部族群にて、パトロール中の警察車両が銃撃され、警官1名が死亡、2名が負傷した。

○３０日、ペシャーワル市内の警備厳重地区のモスクにて爆発が発生し、少なくとも１００名が死亡した。

○３０日、ＫＰ州スワビ地区にて、掃討作戦により過激派２名が殺害された。他方、同州ＤＩ・カーン地区でも銃撃戦が発生し、武装勢力２名が死亡した。

○３１日夜、約２０名のＴＴＰ戦闘員は、パンジャーブ州ミランワリ

（Milanwali）警察署に銃撃を行った。パキスタン国内でテロ組織による攻撃が再度活発化して以降、ＫＰ州では警察署や検問所が数多く狙われてきたが、今回初めてパンジャーブ州の警察署が標的となった。翌日、パンジャーブ州警視総監は、ＴＴＰによる攻撃を撃退し警察官は誰も負傷しなかったと発表した。また、ＫＰ州との境である当地区にて大規模な掃討作戦を開始したと述べた。

○３０日、治安当局高官は、ＫＰ州クラム部族郡にてアフガニスタンに逃亡しようとしたＴＴＰ戦闘員を殺害したと述べた。同戦闘員は、１月３日にパンジャーブ州カネーワルにて軍統合情報局（ＩＳＩ）職員２名を殺害した実行犯だった。

２月分

○２日、ＫＰ州チャールサダ（Charsadda）の検問所にて、警察に対して発砲した襲撃者１名を殺害した。その後、警察は同地区ニサッタにて掃討作戦を実施し、テロリスト３名を殺害した。

○４日、バロチスタン州グワダルのジワーニー（Jiwani）にて、地雷爆発後、武装勢力が兵士に発砲した。襲撃により沿岸警備隊１名が殉職した他、他７名が負傷した。

○５日、ＫＰ州タンク郡Jandolaにて、過激派数十名が警察署を攻撃したが、警察及び地元住民は武装勢力を撃退した。数時間後、同州ＤＩカーン地区ダラバンでも警察署が攻撃されたが、軍及び警察が攻撃者を撃退した。

○５日、バロチスタン州クエッタのPolice Line付近で爆発が発生し、５名が負傷した。ＴＴＰは後に犯行声明を発表した。さらに、同地区のMano Jan Roadにて何者かが手榴弾を投げ、別の２名が負傷した。

○８日、ＫＰ州ラッキー・マルワットにて、治安部隊と警察が共同でＩＢＯを実施し、ＴＴＰ戦闘員１２名を殺害した。

○ＴＴＰは、治安部隊や諜報機関を標的としており、政治家を襲撃することはないと声明を発表した。同声明は、カーン前首相が自身への暗殺未遂をＴＴＰが企て、南ワジリスタン部族郡の住民に実行するよう命じたとの主張を受けてのもの。

○９日、バロチスタン州デラ・ブグティーにて、何者かの発砲により憲兵１名が死亡、他３名が負傷した。

○９日、ＣＴＤは、最重要指名手配テロリストのＴＴＰの２名をラーワルピンディにて逮捕した。容疑者は、イスラマバード及びラーワルピンディのポリスライン、警察署、裁判所等を標的としていたことを明らかにした。

○１１日、パンジャーブ州ナンカーナ・サーヒブにおいて、多数の暴徒がコーランを冒涜した容疑で警察署に拘留されていた容疑者を引きずりだし撲殺するリンチ事件が発生。シャバーズ・シャリフ首相は、首相府発表の声明において、同事件につき調査を命じ、なぜ警察は暴徒を阻止できなかったのか、法の支配が確保されるべきだ、と言及した。なお、ナンカーナ・サーヒブ警察は、同事件に関わったとされる容疑者６０名を逮捕している。

○１０日、バロチスタン州コフルーにおいて、警備車両付近で爆発があり、ＦＣ隊員２名が殉職し、３名が負傷した。ＩＳＰＲによると、同日は信頼できるインテリジェンス情報に基づきコフルーにおいてテロリスト一掃作戦が行われていた。

○１１日、ＫＰ州北ワジリスタンで治安部隊車列が襲撃を受け、治安機関職員３名が殉職し、民間人を含む２２名が負傷した。ＴＴＰが犯行声明を出している。なお、本件につき、ＩＳＰＲから公式声明は出されていない。

○１１日、ＣＴＤは、ＩＢＯをパンジャーブ州全土で実行し、ＴＴＰ構成員１名を殺害、１１名を逮捕した。ＣＴＤは、同作戦において、自爆用ジャケット１着、爆発物、手榴弾、ピストル等を押収した。

○１３日、ＫＰ州北ワジリスタンにおいて、治安機関とテロリストの間で銃撃戦が発生し、治安機関側はテロリスト１名を殺害し、３名を拘束した。

○１３日、バロチスタン州ドゥキーにおいて、検問を行っていた警察官が、停止させた車両から銃撃を受け殉職した。

○１４日、ＣＴＤがＴＴＰ構成員３名の拘留者を輸送中にＴＴＰからの襲撃を受け銃撃戦となり、輸送中の拘束者２名を含むＴＴＰ構成員７名が死亡した。

○１４日、アフガニスタンのクナール県において、ＴＴＰ傘下のジャマートゥル・アフラール（ＪｕＡ）のシャムシェール（Shamsher）司令官を含む６名がＩＥＤの爆発により死亡。ＪｕＡは先月末のペシャーワル市内モスクにおける自爆テロにつき、犯行声明を出していた。

○１５日、ＣＴＤは、パンジャーブ州トーンサにおいて、ＴＴＰ構成員２名を逮捕した。ＣＴＤは、同２名が同地における礼拝所等を襲撃する旨の情報を入手したことから、捜査及び逮捕を行った。

○１６日、クエッタからペシャーワルへ向かう特急列車ジャファル・エクプレスにおいて爆発が発生し、１名が死亡、７名が負傷した。本件につき、ＣＴＤが地元警察とともに鉄道警察の支援を得ながら捜査を行っている。なお、バロチスタン分離主義勢力ＢＮＡがソーシャルメディア上で犯行声明を出している。

○１６日深夜、パンジャーブ州ミヤーンワーリーのＣＴＤはＴＴＰとの銃撃戦において、ＴＴＰ司令官のハビーブル・ラフマーンを殺害した。

○１７日、バロチスタン州のＣＴＤは、クエッタにおいて自爆テロ容疑者とされる女性を逮捕し、自爆ベストを押収した。

○１７日夜、カラチ警察署（Karachi Police Office）がテロリスト３名に襲撃され、治安機関は数時間に及ぶ作戦を実施し、テロリストを制圧した。同襲撃により、警察官２名、レンジャー１名及び民間人１名が死亡、少なくとも１９名が負傷し、テロリスト３名も死亡した。これにつき、ＴＴＰがソーシャルメディア上で犯行声明を出した。

○２１日、バロチスタン州マストゥングにおいて、テロリストがチェックポイントを襲撃し銃撃戦となり、憲兵２名が殉職した。なお、他にも警察官１名が負傷し、テロリストは銃撃戦で殺害された。

○ＩＳＰＲによると、２２日、治安機関がＫＰ州北ワジリスタンにおいてＴＴＰ構成員１名を殺害し、自称自爆テロ犯含む６名を拘束した。

○ＣＴＤは、ペシャーワル近郊テーラ・バンド（Tela Band）において、ＴＴ

Ｐと繋がりがあるとされるアフガン人ミリタント１名を殺害、５名を逮捕した。

○ＩＳＰＲによると、２２日、治安機関がバロチスタン州ケッチュでミリタント８名を殺害した。

○２３日、バロチスタン州チャマンにおいて、ＦＣ隊員２名がバイクに乗った身元不明のものから銃撃を受け殉職した。

○２３日、警察によると、ＫＰ州ラッキー・マルワットにおいて、警察及びＣＴＤがＩＢＯを実施し、ミリタント６名を殺害した。同ミリタントらは、警察のチェックポストへの攻撃を計画していたとされる。

○２４日、治安機関はバロチスタン州アーワラーンにおいてテロリスト１名を殺害した。

○２５日、バロチスタン州クズダールでパトロール中の警察車両に対してＩＥＤによる爆破攻撃が行われ、警察官１名が死亡し、２名が重傷。

○２６日、バロチスタン州バールカーンの市場で爆破テロが発生し、少なくとも４名が死亡、１６名が負傷した。

○ＩＳＰＲによると、２６日、ＫＰ州北ワジリスタンにおいて、ミリタントがチェックポストを襲撃し、兵士２名が殉職した一方、襲撃犯２名も銃殺された。

○２７日、ＫＰ州南ワジリスタンにおいて、道路脇に設置されていたＩＥＤの爆発により、道路横断中の子供１名が死亡、２名が重傷を負った。本件について現時点で犯行声明は出されていない。

○２８日、ＫＰ州スワビのカラマール山地（Karamar Mountain）において、警察はミリタント１４名を逮捕した。

３月分

○２日、バロチスタン州ケッチュにおいて、治安機関とミリタントの銃撃戦が発生しミリタント２名が死亡した。

○３日、ＩＳＰＲはＫＰ州北ワジリスタンにおいてＩＢＯを実施し、銃撃戦でテロリスト１名を殺害したと発表した。

○パンジャーブ州のＣＴＤは同州内各地でインテリジェンス情報に基づき計３１の作戦を実施し、８名のテロリストを逮捕した。ＣＴＤ報道官によると、逮捕されたテロリストには、ＴＴＰやアル・カーイダ、ラシュカレ・ジャングヴィー（ＬｅＪ）の構成員等が含まれていた。

○５日、ＫＰ州バンヌーの市場付近でＩＥＤによる爆発が発生し、市民１名が死亡、２名が負傷した。なお、同爆発の直前にも同じくバンヌーにおいて、ミリタントによる警察チェックポストへの襲撃が発生していた。

○６日、バロチスタン州ボーラーンにおいて、自爆テロ犯がバイクで警察車両に突っ込み、少なくとも警察官９名が殉職、１３名が負傷した。同犯行につき、パキスタン・ジハード運動（Tehreek Jihad Pakistan）という団体が犯行声明を出したが、ＡＦＰ通信によるとイスラム国が犯行声明を出したとのこと。

○７日深夜、バロチスタン州ワーシュクにおいて、ＴＴＰ戦闘員が警察のチェックポストを襲撃し、銃撃戦において憲兵１名が殉職した。なお、襲撃犯１名も銃撃戦で死亡した。なお、ＴＴＰが同州ワーシュクにおける襲撃の犯行声明を出したのは初めてである。

○ＩＳＰＲによると、８日、ＫＰ州北ワジリスタンにおいてＩＢＯが実施され、少なくとも６名のテロリストを殺害した。翌９日、同作戦においてさらに３名のテロリストを殺害した。

○８日、ＫＰ州Ｄ・Ｉ・カーンにおいて、国勢調査チームを警護する警察車両に対して銃撃がなされ、警官１名が殉職、４名が負傷した。

○８日、バロチスタン州ハルナーイーにおいて、ＩＥＤ爆発により市民１名が死亡、３名が負傷した。

○１０日、治安機関がＫＰ州北ワジリスタン・南ワジリスタンにおいて、ＩＢＯを実施し、少なくとも５名のミリタントを殺害した。また、殺害したミリタ

ントからは大量の現金と弾薬が押収された。

○１１日、バロチスタン州カッチーにおいて、サルダール・カーン・リンド同州議会議員（野党ＰＴＩ所属）の息子を乗せた車列に対する爆破テロが発生し、私用警備員２名が死亡、１名が負傷した。同議員の息子は無傷であった。

○ＫＰ州ラッキー・マルワットにて、国勢調査の警備を行っていた警察官が何者かに撃たれ死亡した。また、同州タンクでも同様の襲撃事件が発生し、警察官１名が殉職、４名が負傷した。ＫＰ州ＤＩ・カーンのクラチでも同様の事件が発生し、警察官１名が負傷した。他方、治安部隊は６００万ルピーの懸賞金がかけられたＴＴＰ構成員を殺害した。

○１３日、シンド州情報相は、２月１７日に発生したカラチ市警察本部襲撃事件の首謀者２名を殺害したと発表した。また、ＴＴＰに属する他の容疑者２名を逮捕したと述べた。

○１４日、バロチスタン州クズダール地区にて、車両に取り付けられていたＩＥＤが爆発し、２名が死亡した他通行人７名が負傷した。ビゼンジョー同州首席大臣や同州内相等が事件を非難すると声明を発表した。

○１４日、ＫＰ州北ワジリスタン部族郡の検問所にて銃撃戦が発生し、武装勢力４名が殺害された一方で兵士１名が殉職した。

○１５日、ＩＳＰＲは、ＫＰ州南ワジリスタン部族郡ジンガラ地区での銃撃戦にてテロリスト８名を殺害したと発表した。他方、２名の子供が亡くなった他、兵士２名が負傷した。

○１６日、バロチスタン州ジョーブ（Zhob）地区にて、何者かが車両を銃撃し７名が死亡した。亡くなった内の１名は部族長老で、部族警察から複数の事件に関して指名手配されていた。

○ＫＰ州警察は、１月３０日に発生したペシャーワル市内での自爆テロ事件に関し、実行犯の１人を追加で逮捕したと発表した。ＣＴＤによると、逮捕された実行犯はクンドゥーズ県出身のアフガン人であった。

○ＩＳＰＲは、３月１５日から１７日にバロチスタン州アーワラーン南部に

て、掃討作戦を実施したと発表した。その結果、治安部隊が３人のテロリストを殺害し、武器と弾薬を回収した。

○２１日、ＩＳＰＲは、ＫＰ州南ワジリスタン部族郡のアフガニスタン国境付近にて、ＩＳＩ准将１名及び運転手が移動中に殺害されたと発表した。また同日、同州ＤＩ・カーン地区のサグーにて、銃撃戦によりテロリスト３名が死亡した一方、治安部隊３名が殉職した。

○３０日、ＫＰ州ラッキー・マルワットにて、ＩＥＤの爆発により警察副本部長（ＤＳＰ）１名を含む警察官４名が殉職した。ＴＴＰが犯行声明を発表した一方、シャリフ首相は当事件を非難した。

５　誘拐・脅迫事件発生情報

今期、日本人が対象となる誘拐事件は発生しなかった。

当地では、パキスタン人が誘拐される又は誘拐後に殺害されて発見される事件が頻繁に発生している。誘拐・脅迫事件の背景としては、テロ組織による、誘拐事件を利用した政府等への身代金等の要求又は資金稼ぎを目的として犯行に及ぶケースの他、犯罪者が、強姦等の性犯罪や身代金目的で行うケースがある。このような誘拐事件は、解決までに多大な労力・時間を要すると共に、誘拐された被害者が殺害される可能性もあることから、事件に遭わないための安全対策が重要である。

また、女性や子供が性犯罪目的で誘拐される事件が多く報道された。

６　日本企業の安全に関わる諸問題

これまでのところ、邦人及び日系企業に対する脅威情報には接していないものの、２０１７年５月にはクエッタにおいて中国人の誘拐・殺害事件が発生したほか、同年７月にも、カラチ市内の幹線道路において中国人技術者を対象とした爆発事件が発生するなど、外国人が事件に巻き込まれるケースも発生している。

２０２０年１２月１５日、カラチ市南地区において中国人の車両に遠隔装置爆弾が設置されたが不発だった。この中国人はレストランを所有している。同人がクリフトン地区のショッピングモールから帰宅していたところ、オートバイに乗車した２人の男が中国人車両に接触した後に逃走した。その際に爆発物が磁石で取り付けられた。

２０２１年４月、クエッタにおいて駐パキスタン中国大使が滞在していたホテルに対するテロが発生した。さらに、同年７月１４日には、ＫＰ州のダ

ッス一水力発電プロジェクトに従事するスタッフ達を乗せた中国会社のシャトルバスが建設現場に向かう途上で攻撃に遭い、中国人及びパキスタン人十数人が死亡し、数名が負傷した。本件については、パキスタン政府及び中国政府がテロであったとしている。

同年８月２０日、バロチスタン州グワダルにおいてＣＰＥＣ関連事業に従事する中国人技術者を狙った自爆テロが発生し、中国人及びパキスタン人９名が死亡、複数の負傷者が出た。

２０２２年４月２６日午後、シンド州カラチ市のカラチ大学に隣接する孔子学院前で自爆テロが発生し、中国人教員３名を含む４人が死亡、２人が負傷した。

同年９月２８日午後、カラチ市サダル地区にある歯科医院内で殺害事件が発生し、中国人１名が射殺され、２名が負傷した

また、２０２２年１１月、ＴＴＰがパキスタン政府との停戦協定の破棄を宣言以降、テロの脅威がある。同年１２月には首都イスラマバードで自爆テロが発生し、複数人が死傷しており、これに関してもＴＴＰが声明を出した。

当地においては、活動地域の最新の治安・安全情報の入手を欠かさず、安全を第一に考えた行動方針を定め、先ずは事件に遭遇しないための対策を講じるとともに、万が一の事態を想定した具体的な警備・連絡体制を確立することが重要である。

また、当国政府の政策として、外国人の入域を制限している地域が国内各地に存在し、そのような地域に政府からの事前の許可を得ず（又は事前通報をせず）入域した場合には、現地治安当局による安全対策がなされないばかりか、速やかな退去を命ぜられ、また犯罪に巻き込まれた際に通常の警察活動が期待できない場合があるので、当国政府の規定に従い、事前に然るべき手続きを行うことが必要である。なお、手続きを行ったにもかかわらず、政府からの入域許可が得られない場合には、安全上の問題が生じる可能性があるため、当該地域への入域は控えることが望ましい。

（以上）